



83

↑階メディアストリート展示棚では、11月5日に実施したブックハンティングで、学生さんが選んでくれた本を展示しています！貸し出しもできますので、見てください！

- ハゲタカ出版社の雑誌に注意しましょう
- 図書館員のおすすめ本
- 図書館からのお知らせ
図書館利用についてお願い ほか

ハゲタカ出版社の雑誌に注意しましょう

2016年12月のLibrary Newsで「ハゲタカ(Predatory)出版社に気をつけて」という記事を掲載しました。2018年は、このハゲタカ出版(悪徳学術誌・粗雑学術誌など)の話題が新聞にも何度か取り上げられました。

➤ **ハゲタカ出版とは**:学術雑誌には適切な査読が欠かせないにも係らず、査読しない、あるいは簡易な査読で論文をオープンアクセス出版し、著者が支払う高額な論文処理料(Article Processing Charge: APC)を得るのが主な目的の出版社、あるいはそれが出版する雑誌、のことです。

自分とは関係ない、と思っている方も多いと思いますが、実は本学からも疑わしい出版社の雑誌への投稿(支払い)はあります。某新聞社発表の「ハゲタカ出版の掲載が多い大学ランキング」には掲載されませんでした。投稿がない訳ではないのです。特に医学分野は、お医者さんの懐を狙ってハゲタカ出版社が活発だ、と言われていました。

また、「あなたの論文を是非掲載したいので投稿して欲しい」といったお誘いメールが来た、という方も結構いらっしゃるようです。“原稿を掲載させて”なのに、投稿料が必要という場合は、ハゲタカ出版の可能性が高いので、そのようなメールを受け取ったら、慎重に検討してください！

ハゲタカ出版の何が問題なのでしょう。誰もが読めるオープンアクセスで論文を発表するのは良い事だ、という意見もあります。たしかにオープンアクセスは素晴らしいことです。しかし、そのために貴重な研究費が搾取されてしまっては困ります。

また、ハゲタカ出版社が、この先も継続的に雑誌のWebサイトを維持するかどうかは大変疑問です。気が付いたら電子ジャーナルのWebサイトがなくなっているなんて、悪夢です。

学術の世界では、“正しい”論文が流通していることが大前提です。医学の世界では、論文が医療のエビデンスとなるケースも多いです。それなのに、粗悪な論文が多数流通してしまえば、研究・医療の妨げになりかねません。うっかりそのような悪徳雑誌に、精力を傾けた論文を投稿してしまって、後から「業績の水増し」と捉えられては大変です。

ハゲタカ出版社の名前、またその雑誌名は、コアジャーナルと大変よく似た雑誌名が多いです。例えば、A.M.O (A.M.Aなら、American Medical Associationでアメリカの権威ある組織ですね!)や、International Journal of …… など、なんとなく聞いたことがある感じなので、うっかり惑わされないようしてください。

ハゲタカ出版に投稿しないためのチェックポイントとして、幾つかを紹介します。

- ①その雑誌が、掲載基準がある論文データベース(Scopus や Web of Science など)に収録されているかどうか。本学では、Web of Science を契約していませんが、収録雑誌については、Insites Journal Citation Reports で調べることが出来ます。
- ②その雑誌のWebページに、問い合わせ先として、正しい連絡先が記載されているかどうか。
- ③Aims and Scope(その雑誌のねらい目や研究範囲)が不自然ではなく、正しい英語で掲載されているか。
- ④DOAJ (Directory of Open Access Journals)のWebサイト(<https://doaj.org/>)に掲載されているか。DOAJは、真ッ当なオープンアクセス誌のリストを掲載しています。



図書館員おすすめ本



京大式 deep thinking :
最高の思考力 / 川上
浩司著
図・2F開架/一般教養
141.5/Kyo

『京大式DEEP THINKING』は、京大デザイン学教授による「考える力」について書かれた本です。テストの点数が高い＝頭が良いということではない、というのはずっと以前から言われていますし、皆さんも頷けることでしょう。図書館にも「考える力を身につけよう系」の本は数冊ありますが、これはその中でも比較的文章が易しく読みやすい本です。

さて皆さんは、日々時間に追われて過ごしているのではないのでしょうか。目の前に迫った試験の内容や、急ぎの仕事に必要な内容を取り敢えず頭に詰め込む。(油断すると中身が零れてしまいそう!) 調べたいことは手短かにネットで検索(またはHey, Siri!)するか、SNSで「誰か」に答えて貰う。(教えてくれた「誰か」、労力と時間を奪ってごめんね!) 改善したいことはあっても、忙しいので「とりあえず今回は前と同じ」で済ませれば、「次」も追われて結局同じ手順を繰り返すだけで終わってしまう。(次こそはって毎回思うんだけど!)

何かと即断即決即答が求められて、「便利さ」「速さ」が良しとされがちな昨今ですが、著者によると、速く出した回答が必ずしも的を射ているとは限らず、逆に深く考えることで生み出されたかも知れないことが抜け落ちてしまうといえます。“「深く考える」とは「プロセスをたどる営み」”であり、“思考のプロセスにこそ「真の問題」や「新たな解決法」が隠れていて、価値もある”との意見には納得できますし、耳が痛いところでもあります。

医療の世界でもAI/Deep Learningによって膨大な論文情報や症例の中から素早く可能性の高い診断を見いだすことが注目を浴びてきていますが、最後に判断するのはやっぱり「考える」人間ですよ。

どれだけ便利な世の中になっても、考える葦が只の葦に成り果てることはないはず。ということで、たまにはゆっくり時間を取って「考える」ことについて考えてみるのは如何でしょう。考える力をつける、衰えさせないようにするためには、ショートカットする手段はなく、結局考えることを続けるしかないのです。

もう一冊『システムの問題地図』は、ITベンダーとユーザーの両方を経験した著者が、システム化・導入作業にあたって業者とユーザー側がお互いに知っておくと、使えないシステムを導入してしまった…なんていう失敗を防げるかも? という内容を纏めた本です。内容の半分位はSEの「困ったあるある」ですが、業務をシステム化(大がかりなものではなくても)をどのように進めれば良いのか、考え方のプロセスは分かりやすくオススメです。(そう、やっぱり十分に「考える」ことが必要なのです!)

また、p.171には本学病院システムに纏わる判例が紹介されていますので、「これから仕様書を作らねば」という向きには一度ご覧頂くと参考になるかもしれません。(図書館員)



システムの問題地図: 「で、どこから
変える?」使えないITに振り回される悲
しき景色 / 沢渡あまね著
図・2F開架/一般教養
336.57/Shi

図書館からのお知らせ



館内座席の利用について

多くの方が座席を利用できるよう、以下のことを守ってください。

1) 座席に荷物を放置しない。

授業等で長時間席を離れるときは、他の人が使えるように荷物を持って退館してください。

2) 座席は1人1席でご利用ください。

セミナー室やPCコーナー等を使う時は荷物も一緒にお持ちください。

3) 図書館利用に関係ないもの、大きな荷物は持ち込まない。

キャスター付きバッグ、巨大サイズのカバン、大きなスポーツ用品等を持ち込もうとする人がいますが、通路を塞いだり、複数の席を使う原因となります。他の利用者の迷惑になりますので**持込はお断りします。**



冬休みの図書館利用について

1) 長期貸出を実施中です。

(本学学生・教職員対象)

2019年1月1日(火)まで実施しています。
返却期限は**2019年1月15日(火)**です。

2) 開館時間を変更します。

12月17日(月)～12月26日(水)は**17時に閉館**します。

【年末年始の開館スケジュール】

閉館: 12月27日(木)～2019年1月4日(金)

※本学教職員、申請済の学生は終日特別利用可

通常開館: 2019年1月7日(月)～
(21時に閉館)

学外文献複写のお申し込みはお早目に!

年末年始にかけて休館する図書館が多くなります。通常より文献の取り寄せに時間がかかりますので、文献手配はお早目にお願いします。年内入手を希望する場合は**12/17(月)17時まで**にお申し込みを!

